

目指す教師像 ① 生徒を認め、生徒と共に学び続けることのできる教師 ② 生徒の自己実現を支援できる教師
 ③ 生徒の心に寄り添うことのできる教師 ④ 教育公務員としての自覚をもって、職務を遂行する教師

教育目標	「自立」 よく考える人になろう	「勤 労」 すすんで働く人になろう	「協 調」 ともにたすけあう人になろう
主な具体的方策	① 校長による授業観察の充実を図り、各教科で、授業のねらい、内容に応じて、学習形態（一斉・個別・協働）を明確にしてタブレット端末を活用する。 ② 教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等との関連性を意識して、学ぶことと夢や未来を繋げる授業づくりを行う。 ③ 地域未来塾等の取り組みやタブレット端末を活用して、家庭学習の時間が少ない生徒に対する支援を強化する。 ④ 適正な評価・評定を行うために、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際の評価資料や評価方法等の精度を高める。	① 教科等の学習と特別活動や職場体験などを関連付け、体験活動等の意義を明確にして、自分は人のために役立っているという気持ちを高める。 ② 感染症対策を講じた上で、開進二中行事の復興を図り、本校への帰属意識を高める。 ③ 生徒会活動、委員会活動、部活動の意義を明確にして、将来の夢や希望に結び付ける。 ④ 保健体育や体育的な行事で学習したことを自身の健康・体力の増進に結び付ける。 ⑤ 学校生活を通して、「生活・交通・災害」安全指導の充実を図り、危険予知能力や危険回避能力の向上を一層図る。	① 各教科・領域等の学習と人権教育の課題を関連付けた単元計画を作成し、教育活動の充実を図る。 ② 「自己肯定感を高め、多様性を認め合う生徒の育成」という東京都の人権尊重教育推進校の研究を通して、人権課題についての正しい理解と認識を深める指導を行う。 ③ いじめや不登校の未然防止に向け、全教員による見守活動や定期研修会を実施し、生徒たちの「居場所づくり」と「きずなづくり」につながる学級経営を一層進める。 ④ 関係諸機関と連携を図りながら、生徒や保護者が「いつでも」相談できる教育相談体制をつくる。
評価指標 肯定的な回答が80%以上	① 電子黒板やタブレット端末などのICT機器を活用して、楽しく分かりやすい授業が行われている。 ② 感染対策をした上で、考えたり話し合ったりする場面が授業に位置付けられている。 ③ 別の教科の内容にも関連付けながら、何のために学習するのかを意識させた授業が行われている。 ④ 地域未来塾、家庭、塾などで、自ら主体的に学習する毎日の平均時間は以下のとおりである。 ⑤ 新しい評価の観点に基づいた適正な学習評価が行われている。	① 挨拶・時間を守る等の基本的な生活習慣を身に付けるための指導が行われている。 ② 感染やけがの防止をはじめ、健康や安全について配慮しながら生活するよう指導が行われている。 ③ 生徒は、部活動をはじめ委員会活動等に一生懸命取り組んでいる。 ④ 生徒は運動会や学年の行事に、学級の人と協力しながら、主体的に取り組んでいる。	① 生徒は「思いやり宣言」を理解し、「居場所づくり」と「きずなづくり」につながる学校生活を送っている。 ② 生徒は様々な場面で「思いやりの心」をもち、みんなの人権を尊重する行動を取っている。 ③ 生徒は道徳での学びと、「自他ともに大切にしたい思いやりの心」をつなげながら授業を受けている。 ④ 学校は、教室の掲示物や環境美化、清掃活動をきちんと行っている。